

広島県感染症発生動向月報

[広島県感染症予防研究調査会 感染症解析評価部会]
(平成14年7月解析分)

1 疾患別定点情報

定点把握(週報)四類感染症

平成14年6月分(6月3日~6月30日:4週間分)

疾患No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号	疾患No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号
1	インフルエンザ	0	-	0.04		12	麻疹	17	0.06	0.23	▲
2	咽頭結膜熱	78	0.26	0.21	↗	13	流行性耳下腺炎	371	1.24	1.33	→
3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	282	0.94	-	↗	14	急性出血性結膜炎	0	-	0.07	
4	感染性胃腸炎	929	3.10	3.07	↘	15	流行性角結膜炎	76	0.95	1.54	↘
5	水痘	453	1.51	1.75	→	16	急性脳炎	1	0.01	-	
6	手足口病	284	0.95	1.45	▲	17	細菌性髄膜炎	1	0.01	0.00	
7	伝染性紅斑	82	0.27	0.49	▲	18	無菌性髄膜炎	56	0.67	0.84	▲
8	突発性発疹	278	0.93	0.90	↗	19	マイコプラズマ肺炎	18	0.21	-	→
9	百日咳	6	0.02	0.03		20	クラミジア肺炎	0	-	-	
10	風疹	17	0.06	0.30	→	21	成人麻疹	0	-	-	
11	ヘルパンギーナ	585	1.95	2.68	▲	「過去5年平均」:過去5年間の同時期平均(定点当り)					

急増減	増減	微増減	横ばい
▲	▲	↗	→
▼	▼	↘	
前月と比較しておおむね1:2以上の増減	前月と比較しておおむね1:1.5~2の増減	前月と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減	殆ど増減なし(発生件数少数のものを含む)

定点について

定点情報は、定点把握対象の四類感染症(週報対象21疾患,月報対象7疾患)について、県内187の定点医療機関からの報告を集計して作成しています。

	内科定点	小児科定点	眼科定点	STD 定点	基幹定点	合計
対象疾患 No.	1	1~13	14, 15	22~25	16~21, 26~28	
定点数	44	75	20	27	21	187

この情報は、「<http://www.pref.hiroshima.jp/fukushi/kenkou/kansen/index.html>」のホームページに掲載しています。
全国情報については、「<http://idsc.nih.go.jp>」に
インフルエンザホームページは「<http://influenza-mhlw.sfc.wide.ad.jp>」に掲載されています。

疾患 No	疾患名	月間発生数	定点 当り	過去 5年 平均	発生 記号	疾患 No	疾患名	月間発生数	定点 当り	過去 5年 平均	発生 記号
22	性器クラミジア感染症	72	2.67	1.94	↗	26	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染	97	4.62	-	↘
23	性器ヘルペスウイルス感染症	24	0.89	0.70	↗	27	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	49	2.33	-	↘
24	尖圭コンジローム	15	0.56	0.30	↗	28	薬剤耐性緑膿菌感染症	4	0.19	-	
25	淋菌感染症	36	1.33	0.89	↗	「過去5年平均」：過去5年間の同時期平均（定点当り）					

手足口病 急増（5月135件 6月284件） ヘルパンギーナ 急増（5月276件 6月585件）
 無菌性髄膜炎 急増（5月3件 6月56件）

2 一類・二類・三類感染症及び全数把握四類感染症発生状況

一類感染症 発生なし
 二類感染症 細菌性赤痢 1件発生（広島市 ヲネ 相）
 三類感染症（腸管出血性大腸菌感染症） 9件発生（広島地域保健所管内O26 3件，
 広島市O111 2件，東広島地域保健所管内O26 2件，
 尾三地域保健所管内O157 1件，福山地域保健所管内O157 1件）
 全数把握四類感染症 4件発生（急性ウイルス性肝炎A型2件，ジアルジア症1件，梅毒1件）

3 一般情報

エコーウイルス13型による無菌性髄膜炎
 無菌性髄膜炎が5月の3件から，6月は56件と急増しました。
 無菌性髄膜炎は，主としてウイルス（コクサッキー，エコー，エンテロ，ポリオウイルスなど）
 によって引き起こされる症候群です。
 発病は急性で，主な症状は，発熱，頭痛，嘔吐で，痙攣は少なく，脳炎などを伴わなければ後遺症はほとんどないと言われています。
 原因ウイルスのうち，日本では2000年まで分離報告がなく，極めて稀な型であったエコーウイルス13型（E13）の分離が今年に入って増加傾向にあり，広島県保健環境センターでも，4月以降0～10才の幼児11名から分離されています。
 E13による無菌性髄膜炎の症状は基本的には通常は無菌性髄膜炎と同様と言われていますが，日本ではE13に対する免疫を持った人は殆どなく，今後の流行の拡大が懸念されます。
 糞口感染，飛沫感染で伝播するため，手洗いの励行などが予防対策として重要です。

腸管出血性大腸菌感染症（O157など）の予防
 腸管出血性大腸菌感染症は，今年も県内ですでに22件（6月30日現在）発生しています。
 予防のため，次のことに注意しましょう。

- 調理する際には，石けんで手をよく洗い，また調理器具は清潔にしてください。
- 加熱調理する食品は，十分に加熱し，生野菜などは流水で十分に洗ってください。
- 飲料水の衛生管理に気をつけてください。特に，井戸水や受水槽などは定期的に検査しましょう。
- ペロ毒素の作用により，溶血性尿毒症症候群（HUS）をひきおこし，重症となる場合があるため，下痢になったら早めに医療機関へ受診しましょう。

高温多湿の多発時期となっています。食品の保存や調理には十分気をつけましょう！

平成14年上半期の二類・三類感染症の発生状況

(二類感染症)

6月末現在で5人の方が細菌性赤痢にかかっており、そのうち3人が海外(東南アジアなど)で感染しています。昨年同期(9人)と比較して、減少しています。

地域別では広島市2人、広島地域保健所1人、東広島地域保健所1人、福山市1人となっており、また菌型は、ゾンネI相 2件、フレキシネル2a 1件、フレキシネル6 1件、フレキシネル 1件が分離されています。

1月にパラチフスが1件発生しました。(平成11年以来3年ぶり)

症状は発熱で、下痢症状はありませんでした。約2週間で回復退院されています。

ポリオ、コレラ、ジフテリア、腸チフスは発生していません。

全国では、同じく6月末現在で、細菌性赤痢が408件、パラチフスが20件発生しています。

(三類感染症 腸管出血性大腸菌感染症)

6月末現在で22人の方がO157などの腸管出血性大腸菌感染症にかかっています。

昨年同期(34人)と比較して減少しています。

幸い軽症の人が多く、入院したのは1人のみ、血便があったのは3人のみでした。

今年は、集団発生事例はありませんが、6月に2家族3人の感染事例がありました。

血清型別ではO157 6件、O26 12件、O111 4件と、今年はO26が多くなっています。(昨年は93件のうち、O157 71件、O26 20件、O111 1件、O145 1件とO157が大部分でした。)

全国では、同じく6月末現在で862件発生しています。

腸管出血性大腸菌感染症発生状況

(保健所別・血清型別)

区分	広島	呉	芸北	東広島	尾三	福山	備北	広島市	呉市	福山市	合計
O157					1			1			4
O26	5			2	2			1	2		12
O111								3	1		4
合計	5	0	0	2	3	0	0	5	3	4	22

(月別)

(人数,平成13年1月~6月)

1月	2月	3月	4月	5月	6月	合計
1	1	0	6	5	9	22

海外旅行での食中毒・感染症にご注意を!

1 旅行前に

- ・必要に応じて予防接種を受けましょう。

広島県予防接種センター

広島市南区皆実町1-6-29 (TEL: 082-254-7111)

予約が必要ですので、事前に電話で申し込んでください。

- ・体調を整え、体力を保持しましょう。

2 旅行中に

- ・生水、氷、カットフルーツ、なまものを避けましょう。
- ・こまめに石けんで手洗いをしましょう。

3 帰国した後に

- ・下痢、発熱などの症状が出たときは、医療機関で海外旅行したことを告げて診察を受けましょう。また最寄りの保健所にご相談ください。